JCI いわき青年会議所
夕刊 いわき民報

「心の復興推進座談会」だより

第1号

いわき青年会議所 〒970-8026 いわき市平字搔槌小路18-8 ☎0246(24)0780　いわき民報社 〒970-8026 いわき市平字田町63-7 ☎0246(23)1666

本紙は、公益社団法人いわき青年会議所と株式会社いわき民報社が共同で企画・発行しています

いわき市民と双葉郡からの人々の「共生」に向けて 今、動き出そう！

いわき市民と双葉郡の人たちが「良き隣人」として互いを知り認め合うために――この目的の達成に向け、いわき青年会議所は2014年度、組織内に「心の復興推進委員会」を設置した。現在いわき市内には、原発事故によって双葉郡から避難している人々約2万4000人が居住している。しかしながら、住民の相互交流や情報が不足している面も多々あり、こうしたことが原因と思われるいわき市民とのあつれきも生じている。同委員会では、いわき市民と双葉郡からの人々との真の「共生」を目指し、現在の問題点を洗い出し、市民意識の醸成に向けた活動を展開するにあたり、市内で夕刊「いわき民報」を発行する、いわき民報社との共催で、関係者による座談会を立案した。その第1回が7月25日、いわき市平字田町のいわき民報ビルで開かれ、下記の参加者が活発に議論を交わした。各視点からの意見・提案を集約し、いわき市をはじめとする各行政機関への働きかけの材料としていくことも申し合わされた。（2・3面に概要掲載）

双葉郡からの避難者の仮設住宅は市内各地に

県の復興公営住宅下神白団地（第2・3工区）の完成予想パース＝画面左側、右はいわき市の災害公営住宅小名浜団地

座談会参加者

公益社団法人いわき青年会議所 理事長
渡邉 大輔 氏（わたなべ・だいすけ）
いわき市常磐出身・在住。公益社団法人日本青年会議所復興支援委員会委員。株式会社渡辺組専務取締役。37歳

南双葉青年会議所 理事長
小野田洋之 氏（おのだ・ひろゆき）
双葉郡浪江町出身。震災後いわき市内に在住。東京電力株式会社広野火力発電所勤務。40歳

常磐共同ガス株式会社 代表取締役社長
猪狩 謙二 氏（いがり・けんじ）
いわき市常磐出身・在住。51歳

株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FMいわき）放送局次長
中川 敦 氏（なかがわ・あつし）
いわき市常磐出身。双葉郡広野町に自宅を有す。現在小名浜在住。45歳

〈コーディネーター〉

東日本国際大学経済情報学部長・教授（兼）地域経済・福祉研究所長
福迫 昌之 氏（ふくさく・まさゆき）
いわき市平在住。いわき地域復興センター副センター長。47歳

いわき市民と双葉郡の人々 あつれき解消して相互理解へから共生へ

「行政」と「お金」の壁をどう乗り越えるかが最大の課題

現状

福迫　まず3年5カ月を振り返って、いわきと双葉郡の現状について、どのような考えをお持ちですか？

渡邉　双葉郡から避難されている方々の中には、双葉出身ということを隠したり、近所付き合いを避けている人たちがたくさんいます。双葉といわきは、昔から縁の深い地続きの一地であり、違いは、単に地元に原発が「あったか、なかったか」だけのことだけなのに…。震災から3年半が経ち、行政のくくりを外して、フラットな視線で話し合う時期にきたと思うのです。

小野田　原発事故で避難している人々の中に、賠償金をもらったことに引け目を感じているという人も少なくありません。こうした中で、双葉郡の人々にとっては、故郷のビジョンを描いていけるかが大きな問題。行政の道筋をつけるには、近隣行政の連携が非常に重要なのですが…。

猪狩　行政の復興事業は、ハード面ばかりが重視され、被災者の心が置き去りのまま。これがひずみを生んでいると感じています。仮設住宅や借り上げ住宅での生活の長期化も大きな問題。行政に対し、スピード感を持って対処するよう、われわれ民間からも積極的にアプローチしたいと考えています。

中川　震災後、FMいわきにおいて広野、楢葉、双葉の各町の番組をスタートさせ、担当を務めてきました。生活情報を提供しながら交流を深める中で、各人の思いやりの大切さを痛感。イベントなどを企画し、互いが一緒にいる機会を増やすことで、理解を深め合うことが「共生」にもつながると思っています。

フラットな視点に立ち タブーを恐れぬ対話が必要

渡邉

糸口

福迫　中川さんが、いわき市民と双葉郡の人々が一緒にいる機会を増やすことが共生に向け大きな壁は「行政」と「お金」と考えられますが、これらについてはいかがでしょうか。

小野田　原発事故により生活の地を奪われた者として、「家財や不動産補償といった賠償金を受け取るのは当然だと思っています。ただ、いつまで精神的苦痛の賠償金が支払われるかという点については、3年が経過している現状を踏まえると、期限を決めるべきだと考えます。個人的には、精神的賠償金の期限は「3年」ないし「5年」が妥当と考えています。

そのためには、村を阻む大きな壁は「行政」と「お金」と考えられますが、これらについてはいかがでしょうか。

小野田　原発事故により生活の地を奪われた者として、「家財や不動産補償といった賠償金を受け取るのは当然だと思っています。ただ、いつまで精神的苦痛の賠償金が支払われるかという点については、3年が経過している現状を踏まえると、期限を決めるべきだと考えます。個人的には、精神的賠償金の期限は「3年」ないし「5年」が妥当と考えています。

双葉郡町村 いわき市

互いの心通わせて

～各地で広がる笑顔の交流～

本欄の記事は、夕刊いわき民報紙上「仮設住宅だより～人・ふれあい・希望」（毎週月曜）の26年7月掲載分から抜粋、再編集したものです。

四倉鬼越　子どもたちも一緒に交通教室

歌やゲームを交えて開かれた交通教室

県交通安全母の会連絡協議会、市交通安全母の会連合会の交通教室が7月25日、四倉町鬼越応急仮設住宅で開かれた。広野町や川内村から避難している高齢者や子どもたち約60人が訪れ、正しい交通ルールの順守について理解を深めた。

両会では夏休み中の子どもたちも交え、気軽に楽しみながら交通安全を学んでもらおうと、応急仮設住宅への訪問を企画した。安全・安心な夏を送ってもらおうと、両会の関係者が歌やゲームで触れ合いながら、啓発活動を繰り広げた。住民らは、事故に遭わないために注意すべきことなどを考えながら、熱心に耳を傾けた。

三和町民と仮設住民が交流

「シニア人財倶楽部」が企画

バーベキュー料理を囲み交流する参加者

NPO法人シニア人財倶楽部（曝谷道弘代表理事）は7月18日、三和町の渡戸高野集会所で、「仮設住宅等に居住の高齢者の孤立を防ぎ心身の解放を図るコミュニティづくり事業」を繰り広げた。応急仮設住宅で避難生活を送るいわき市民、楢葉、大熊町民ら35人を招待し、バーベキューをしながら、交流を図った。26年度県地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）の一環として開かれた。

バーベキューを交えたイベントは今年初めてで、あいにくの雨でホタル観賞は中止となったものの、会場は大いに盛り上がりをみせた。地元住民の参加者には94歳の女性もおり、その元気な姿に周囲も人もパワーをもらった様子だった。

勿来工高フラが高久第4仮設へ

勿来工業高フラ愛好会「マウロア・ラウレア」は7月13日、高久第4応急仮設住宅で慰問公演を行った。優雅な踊りとブラボーイ」による力強い舞が披露され、広野町民らを楽しませた＝写真。

同校のフラは、男女混成が持ち味で、会場では明るいフラや躍動感あふれるタヒチアンダンスが繰り広げられた。来場者からは盛んに拍手が送られた。

好間高生は楢葉町民を慰問

フラと茶道部、家庭クラブ

好間高のフラ愛好会「ウイラニ　オーラパ」と茶道部、家庭クラブは7月5、6の両日、楢葉町民が生活している高久第8、小名浜林城八反田の両応急仮設住宅で慰問活動を行った。このうち、フラガールズ甲子園に初出場するフラ愛好会は、6人の部員が「月の夜は」「フラガール～虹を」など華麗な踊りを披露した＝写真。

同校は7月、飯野ふれあい館、高久第10応急仮設住宅、高久第5同、上荒川同、内郷白水同にも訪れている。

南双葉JC　フォトコンテスト作品募集中

南双葉青年会議所（JC）は11月16日まで、『時をこえて伝えたい想（おも）い』2014年度南双葉フォトコンテストの作品を募集している。「2014年の南双葉について」をテーマに、地域の宝や日常生活、住民同士の出会い・別れ・再会、風景、記憶に残したい場所、子どもの笑顔、震災復興に携わっている勇姿――などを撮影した写真を募っている。本年撮影されたものに限る。

グランプリ1点（副賞5万円）、準グランプリA1点（同3万円）、準グランプリB1点（同子供商品券1万円分）ほか、特別賞A若干数（同1万円）、特別賞B相当数（同子供商品券2000円分）を選ぶ。

問い合わせは、同JC事務局＝電話0240（25）8891＝まで。詳細は、同JCのウェブサイトに掲載されている。

株式会社 渡辺組
代表取締役 渡辺弘
〒972-8318 いわき市常磐関船町上関83
TEL 0246-43-2981 FAX 0246-43-2985
URL http://www.wacon21.co.jp
watanabe
ISO 9001 JQA-QM5555　ISO 14001 JQA-EM0172

創新リフォーム
サニーパワー
ガスワンキッチン スタジオステラ
常磐共同ガスオフィシャルページ
Gas One
常磐共同ガス株式会社 代表取締役社長 猪狩 謙二

FMいわき FM76.2
スマホでも聴けます! 専用無料アプリ「FM聴」
いわき地域情報総合サイト「いわきあいあい」
いわきの「すべて」と「今」を伝えます!!
http://www.i-iwaki.jp
FMいわき
株式会社 いわき市民コミュニティ放送
〒970-8026 いわき市平字大町5-1 TEL25-0763㈹ FAX25-0761
いわきでひとつに!

復興、双葉郡の人々との共生に関する意見・質問等をお寄せください

第2回座談会

日　時　9月16日(火) 18:30～
場　所　いわき産業創造館(いわき駅前ラトブ6階)
テーマ　「双葉郡の人々との共生・融和に向けて」
※第2回座談会は、いわき青年会議所の公開例会席上で開催

一般市民の入場可　入場無料

「心の復興推進座談会だより」では、この第2回座談会、そして第3回座談会（12月開催予定）に向け、読者の皆さんからの意見・質問・要望を募っています。住所、氏名、年齢、職業を明記の上、「心の復興推進質問状」のタイトルを付け、Eメールまたはファクスで、いわき青年会議所またはいわき民報社まで、お寄せください（下記参照＝電話では受け付けません）。

いわき青年会議所事務局　E-mail:info@iwaki-jc.com　FAX 0246(25)7110
いわき民報社　E-mail:adv@iwaki-minpo.co.jp　FAX 0246(24)2168